

平成 28 年度 東京都内湾水生生物調査 8 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 28 年 8 月 4 日に稚魚調査を実施した。天気は晴れで、気温 30.5～30.8℃、調査地点の風は弱く、海は静穏であった。調査当日は大潮で、干潮が 11 時 56 分、満潮は 18 時 22 分であった(東京都港湾局のデータ)。

6 月調査時に比べ、ボラ、マハゼの全長は大きくなり、個体数は少なくなっていた。また、スズキは採取されなかった。これら 3 種は、多くが成長と共に深所に移動したものと考えられる。調査地点では、カライワシ、コショウダイ、ギマ等の夏季に特徴的な仔稚魚が出現した。

2016/8/4	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	11:15-12:06	10:00-10:50	12:45-14:52
水温(℃)	29.1	26.8	32.5
塩分	17.2	18.3	2.6
透視度[cm]	55.0	71.0	19.0
DO(mg/L)	4.3	3.0	4.5
DO飽和度(%)	62.2	42.0	62.6
波浪(m)	0.1	0.0	0.2
pH	7.4	7.3	7.5
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	下げ潮から最干時に調査を行った。	観光客の数は 50 名ほどであったが、潮干狩りをしている人は見当たらなかった。 下げ潮時に調査を行った。	汀線付近では、カワウやカモメ類の群れが休息していた。旧江戸川の出水の影響により、調査地点の塩分は低く、木の枝、ゴミ等が漂着していた。上げ潮時に調査を行った。

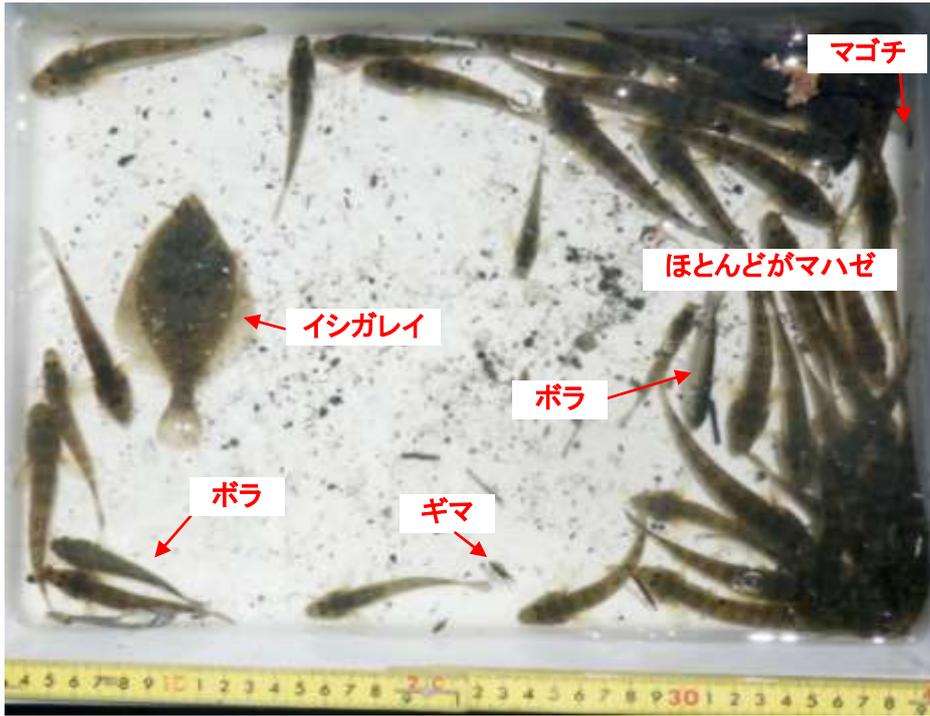
●主な出現種等 (速報のため、種名などは未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 <sup>注</sup> )	マハゼ(c)	マハゼ(+)	ハゼ科(m)
	ボラ(r)	ビリンゴ(+)	コノシロ(c)
	ヒメハゼ(r)	ボラ(r)	チチブ属(c)
	イシガレイ(r)	チチブ(r)	ボラ(+)
	マゴチ(r)	ドロメ(r)	ビリンゴ(+)
魚類以外	エビジャコ属(+)	アサリ(c) ユビナガスジエビ(r)	ニホンイサザアミ(m) シラタエビ(+)
備考	他にギマ等が採取された。 調査地点では、テナガエビが 1 個体確認された。	他にヨウジウオ、コショウダイ、ヒメハゼ、ユビナガホンヤドカリ、ガザミ科(稚ガニ)、タカノケフサイソガニ等が採取された。	他にカライワシ、コショウダイ、ヒメハゼ、エドハゼ、アサリ、エビジャコ属等が採取された。

注)表中の( )内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+5-20 個体未満、r:5 個体未満

# 城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある小規模な干潟で、北側には東京港野鳥公園がある。

## ●主な出現種等



東京湾を代表する魚のひとつ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。城南大橋では、大型の個体が多く採取された。



全長は9cm程度になる。内湾や河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。小型甲殻類や二枚貝を食べている。調査時は産卵期に当たり、婚姻色(頬部周辺が黒色になる)を呈していた。



1995年頃から東京湾の各地で確認されるようになった。干潟域などの浅所に、夏から秋にかけて全長1~5cm程度の仔稚魚が出現する。

## ●周辺の状況



内湾や河口域の水深30m以浅の砂泥底に生息する。干潟域や人工海浜、砂浜海岸などの浅所では1~6cm程の稚魚がみられるが、成長するにつれて徐々に深い場所へと移動する。

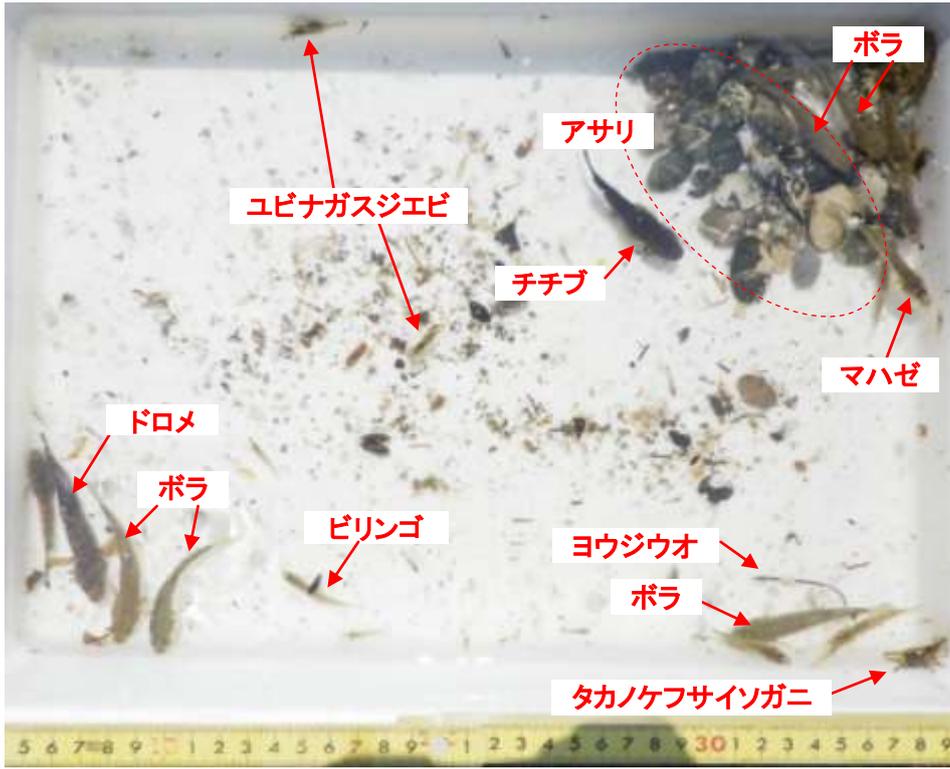


江戸前のカレイとして知られる。稚魚は干潟域などのごく浅い場所に出現し、その後、成長しながら徐々に深い場所へと移動する。体の模様は砂の色にそっくりである。



北海道を除く日本各地に分布し、河川の淡水から汽水域に生息する。名前の通り、ハサミ脚(第2歩脚)が長く発達する。調査点で確認された個体は衰弱しており、他の場所から流されてきたと推定される。

# お台場海浜公園 採取試料



レインボーブリッジの袂にある人工の渚。台場公園や鳥の島で囲まれており、静穏な場所である。

## ●主な出現種等



河口付近の干潟域で仔稚魚が 3~5 月に大量発生する。稚魚は成長するにつれて河川の上流側に移動する。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣穴に産卵する。



内湾や河口域に生息し、泥底から砂泥底にある転石やカキ殻の間や下などに多くみられる。



東京湾では、湾奥から外湾にかけての転石域、カキ礁、岩礁域の潮だまりや浅所に生息する。



ヨウジウオ科魚類では、東京湾でもっとも普通にみられる種。湾奥から外湾にかけてのアマモ場で多くみられる。全長 30cm 程度になるが、調査で捕獲された個体は全長 7cm 程度の“つまようじ”サイズであった。



湾奥から外湾にかけての干潟域などの浅所で、夏から秋に体長 3~10cm 程度の個体がみられる。尾鰭以外は褐色で、枯葉に擬態していると考えられている。



潮干狩りなどで盛んに獲られている代表的な二枚貝。東京湾のものは形が細くて、模様コントラストが強いものが多い。貧酸素水塊の影響か、海底面上に出ている個体が多く採取された。

# 葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。一般の立ち入りは禁止されており、野鳥の楽園となっている。

## ●主な出現種等



内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚である。体長2cmほどの稚魚になると群れで来遊する。干潟域には早春から夏にかけて滞在し、徐々に成長する。



東京湾を代表する魚のひとつで、内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、ふ化した仔魚は内湾の干潟域などの浅所でもみられる。江戸前寿司のコハダは、10cm程度に成長した本種のこと。



体はミミズのように細長い。干潟域に生息し、アナジャコ等の甲殻類の巣穴を、産卵場所や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。



湾奥の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴がある砂泥地を好む傾向がある。アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。小型甲殻類を食べる。



チチブまたはヌマチチブの稚魚である。チチブ属魚類の浮遊仔魚は、6~9月に干潟域などで大量に出現する。成魚では、チチブは河口域、ヌマチチブは中流から下流域で多くみられ、頭部の白斑の粗密等で区別されるが、稚魚では未発達で、見分けられない。



全長は1.2m程度になる。ウナギ目の魚類と同様、レプトセファルス幼生(葉形幼生:平たく細長い透明な幼生)を経る。成魚は沿岸を回遊するが、稚魚や未成魚は河口域にも進入する。東京湾では、内湾の干潟域で7~9月にレプトセファルス幼生や変態後の稚魚が採集されている。